高等学校 令和7年度(1学年用) 教科 外国語 科目 コミュニケーション英語 国語 科 目: コミュニケーション英語 I 単位数: 単位

教 科: 外国語 科 目: コミュニケーション英語

対象学年組:第 1 学年 A 組~ F 組

使用教科書: (FLEXI)

教科 外国語 の目標:

【 知 識 及 び 技 能 】関係副詞や分詞構文などに加えて、語彙や表現など、用法や意味を理解している。また本書を通して学習する 【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 コミュニケーション英語 の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 | | | | | |
|-------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| | 社会的、文化的な内容についての会話や説明を聞いたり読んだり して、内容の要点を捉えている。また、また、聞いたり読んだり | | | | | | |
| 容について、簡単な語句や文で示された内容の要点を捉えたり、 | して理解した内容を、学習した文法や表現、簡単な語句を用い | また、聞いたり読んだりして理解した内容を、主体的に英語を | | | | | |
| | て、聞き手や話し手、書き手を意識し、自身の考えや意見を伝え 合ったり、事前に準備したものなど活用して発表したり、理由や | | | | | | |
| | 根拠を示しながら、まとまりのある文章を書こうとしている。 | たものなど活用して発表したり、理由や根拠を示しながら、まとまりのある文章を書こうとしている。 | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | 配当 | | | | | |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|---|---|--|---|---|---|----------|
| A 単元 Lesson 1 【知識及び技能】 ・語句の意味はよび発音を定着させる。 ・「即解させる。 ・「即解させる。」 ・思スの情報が表現力等】 ・思スの情報が表現ののでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないができます。 ・といるでは、大きないないができます。 ・ないないないができます。 ・ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着している。 ・松岡修造氏に対して我々が誘み取らせる。 ・松岡修造氏の発音に込められた思いを読み取る。 ・松岡修造氏から高校生へと向けられたメッセージの意味を理解する。 ・「助動詞」「to+不定詞」の表現を理解する。 ・自分なりのフレーズを考え、そこに込めた思いや意図を他の生徒に説明する。 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| B 単元 Lesson 2 【知識の意味記述 書音を定着させる。 表現の意味 表現に見して 表現 とこれで 表現 とこれで 表現 とこれで 表現に 見して るいまれて るいまな 石動理 はいまな 一定 といまな 日本 は 日本 | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・大学教授の学生たちに見せたジャーの実践が何を意味しているのかを自分なりに推察する。 ・ジャーの中に入れられる泥、砂、石がそれぞれ何を表しているのかを読み取る。 ・ジャーの中に泥、砂、石を入れていく正しい高でもでいて読み取らせる。 ・返番について読み取、砂、石は何なのかを考える。 ・「動名詞」「間接疑問文」の表現を理解する。自分にとっての泥、砂、石がそれぞれ何かゼンする。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 1 定期考查 学 | | | 0 | 0 | | 1 |

| 期 | C単元 Lesson 3 【知識及び技能】 ・「競及び技能】 ・「現在完了」 ・「現在完了」 ・「現在完了」 ・「表現、表現、大学」 ・「大学」 ・「大学 ・「大学」 ・「大学 ・「大学 ・「大学 ・「大学 ・「大学 ・「大学 ・「大学 ・「大学 | 指導事項 教材 一人 1 台端末の活用 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・環境にやさしいエネルギーが持つ問題点を ・張み取る。 ・SSPS計画とは、どのような計画かを理解する。 ・その計画にはなぜ資金が莫大にかかるのか、問題点を読み取る。 ・JAXAが困難な計画にもかかわらず、実現を 諦めない理由を理解する。 ・「後置修飾」「現在完了形」の表現を理解 する。 ・宇宙開発のポジティブな側面、ネガティブな側面を検討し、グループで話し合ったり、 話し合った内容を発表したりする。 | 0 | 0 | 0 | 8 |
|-----|---|--|--|---|---|---|----|
| | D 単元 Lesson 4 【知識及び技能】・語及び技能】・語及の意味および発音を定着させる。 表現境では、「過去完」の表現力境である。表現境では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個 | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・マララがどのような環境下で生まれ育った かを読み取る。 ・マララが10歳のときに故郷で起きた出来事 について理解する。 ・思いを伝えるためにとったマララの行動を 読み取る。 ・教育を受けたいという,マララの願いを理 解する。 ・「関係代名詞」「過去完了形」の表現を理 解する。 ・マララのスピーチを聞いて,その内容を理 解する教育が唯一の解決策である」という言説 に対して自分なりの意見を発表する。 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 定期考査 | | | 0 | 0 | | 1 |
| 2 学 | C 単元 Lesson 5 【知識及び技能】・語句の意味および発音を定着させる。・「使役動詞」「節を導く形式主語は」の表現を理力、第1、「原とで表現力、第2、「原解させる。・「原解させる。・「原子で表現の表現をである。・「原子で表現である。・「原子で表現である。」を表現である。を表現で表現である。を表現で表現である。を表現で表現である。を表現で表現である。を表現で表現である。と、「のような取らせる。を表現で表現である。と、「のような取らせる。」を理解で作品はどのない。よりないない。というないない。というないない。というないない。というないない。というないない。というないない。というないない。というないない。というないないない。というないないない。というないないない。というないないないないないないないないないないないないないないないないないないな | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・富士山の特徴や日本文化への影響を読み取る。 ・富士山へ登るのは、どのような歴史的な背景があったかを読み取る。 ・富士山がどんなものに影響を与えたかを理解する。 ・浮世絵師の作品はどのような部分に影響があったかを読み取る。 ・「使役動詞」「節を導く形式主語it」の表現を理解する。 ・世界遺産を1つ選んで調べさせ、その内容をシートにまとめて発表する。 | | 0 | 0 | 10 |

| 期 | C 単元 Lesson 6 【知識及び技能】・語句の意味および発音を定着させる。・「関係代名詞」「強調構文」の表現を理解させる」、「関係代名詞」「強調構文」の表現所係代名詞」「強調構文」の表現の物語とSDGsの関係性を説み取らせる。・トがを説み取らせる。・トのかを説み取らせる。・トーのを記るの世界での3つの目標とは可かを記るの世界での3つの目標とは可かを記るにである。・トーのかを記する。読者に対するメッセー向がを読み取らせる。【学びに歯を1つ選んで調になるメッセートにまとめて発表させる。 | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着させる。 ・『きかんしゃトーマス』という作品の概要を読み取らせ、SDGsが取り入れられるに至った流れを理解させる。 ・SDGsの概要について読み取らせ、『きかんしゃトーマス』に取り入れられた6つのゴールについて理解させる。 ・SDGsが取り入れられた。『きかんしゃトーマス』の各エピソードの概要を把握させる。 ・予じも向けのアニメーション作品にSDGsが取り入れられたことの意義を理解させる。 ・「関係代名詞かれた」「強調構文It is …that ~」を理解させる。 ・SDGsの17のゴールから1つを選び、それに関連したスキットを作成し、グループで演じさせる | 0 | 0 | 0 | 9 |
|---|--|--|---|---|---|---|---------|
| 2 | C 単元 Lesson 7 【知識及び技能】・語級及び技能】・語像人の意味および発音を定着させ、「関係に名詞を表現の非制限理解と、「関係に対して、関係に対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、 | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・「仮想水」とは何か読み取る。 ・日本が仮想水を多く使用しているその背景を理解する。 ・日本がさまざまな国から食べ物を輸入している原因を読み取る。 ・どれくらいの量の輸入食品を浪費しているか読み取る。 ・「関係代名詞の非制限用法」「関係副詞」の表現を理解する。 ・自宅での水の使用量に注目させ、どうすれば使用量を減らせるのかを自分なりに検討した上で、ペアやグループで考えを共有する。 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 期 | D単元 Lesson 8 【知識及び技能】 ・語級及び技能】 ・語句の意味および発音を定着させ、「仮な意味を表現解さま。「仮定法過去」「仮定法過去」「仮定法過去」「仮定法過去」「仮定表力等】・山水が開発したHALと呼ばる。 【出海教り下に、大田本のより、大田本のり、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、大田本のより、 | ・指導事項 ・教材 ・一人 1 台端末の活用 等 | ・語句の意味および発音を定着する。 ・山海教授が開発したHALと呼ばれるロボットについて読み取する。 ・日本の出生率が低下することで、どのような問題が起こりうるか考える。 ・山海教授がロボットに興味を持ったきっかけと、HALを作るまでの過程を読み取る。 ・山海教授がロボットの研究に勤しむ上で、持ち続けている信念について読みまっ。 ・「便定法過去」「仮定法過去完了」の表現で理解する。 ・ロボットのメリットやデメリットについて考える。 ・自分のオリジナルのロボットを考案し、メリットやデメリットに触れながら発表する。 | 0 | 0 | 0 | 8 合計 66 |